

1. 助成事業実施報告書

2023年 3月 29日

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人よなば一
代表者・役職名 氏名 小倉俊平・統括責任者

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

あつまーる配食支援・居場所提供

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

困難を抱えている中高生・若者に安心してすごせる居場所を提供することを目的とし、食事支援を通して関係づくりをしています。居場所を運営している大人はもちろんのこと、地域の理解ある大人のかたがたと子ども達が食事をもとにすることで交流できる機会をつくりました。居場所での活動や食事の時間を通して、信頼できる大人と新しくつながったり関係を深めたりして、自分のことを大切にしようと思えるようなきっかけづくりや自分のことをありのままでもいいのだと認めてもらう体験となるように行事の企画などを行いました。子ども達がより多くの大人と深く関わったり、将来のことを前向きに考えたりするきっかけとなるように、地域の方々や支援の専門家にも食事会に参加してもらうようにしました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

実施できた回数は11回で、毎回10~15名程度が参加しました。学校へあまり行っていない生徒もおり、他者との関係づくりを深めていくのが苦手な子ども達も一部いましたが、地域の大人とつながることができました。町のお祭り行事に参加しておもてなしをする側になったり、商品作りにチャレンジして自分たちで販売するなどの活動もできました。子ども達自身が「この人に見てほしい」「この人に褒められたい」と口にするようになり、地域で仕事をしている大人の方に憧れのような気持ちを持ったり、それがモチベーションとなって普段の行動を自分でより適切にコントロールするよう努めるようになるなど、成長が見られました。地域に理解者が増えたことで、子どもたちを気にかけて見守ってくれる地域の輪ができつつあるように感じています。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

- ・定期で通っている子ども達ではないため、実施する際にそれぞれの子どもと連絡をとったり、食事の手配をしたり、場所の準備片付けをするなど、スタッフで役割分担をする必要があり、10~15名の子どもたちを一度に対応するには、複数名のスタッフが必要でした。今回は町の委託事業と連携しながら活動準備ができたためよかったです。今後、スタッフの人件費を確保することが課題です。
- ・メニューを子ども達が喜ぶファストフードにしたことがありました。私たちとしては栄養のあるバランスのよい食事を摂ってもらいたいですが、居場所を楽しみに来てくれるように環境づくりをするためには、子ども達の要望にも応える必要があり、そのバランスを取るのが難しいところだと感じます。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

